


全国都市再生モデル調査概要

1. 応募団体名	柏崎市 担当：都市整備部都市整備課 関川嘉夫 連絡先：TEL 0257-21-2285 k07406-sekikawa@city.kashiwazaki.niigata.jp
2. 調査名	柏崎港の活性化
3. 推薦団体名	
4. 調査の対象地域	
(1) 対象となる行政 区域名、地区名等	柏崎市 柏崎港湾地区
(2) 対象となる行政 区域及び地区の特徴	柏崎市（新潟県） 人口約9万人 港湾地区
5. 提案した活動の内容	
(1) テーマ、課題	新潟県中越地域の海の物流拠点として機能してきた柏崎港を、中心市街地と連係した魅力ある賑わい拠点としての再生を目指す。市民と共に継続性のある発展を図るため、地域で活躍するレジャークラブやNPO組織と行政が一体となった取り組みが必要。
(2) 本調査費による活動内容の概要	日頃から市民活動に取り組んでいる6団体に声をかけ、2回のワークショップ開催によりそれぞれの取り組みテーマが決定された。 注：下記の 実施団体・ テーマ・ 活動内容 1 柏崎観光青年クラブ・柏崎青年会議所 海を拠点としたまちづくり「マリンレジャー都市柏崎」 柏崎海岸を海洋レジャーと競技のメッカに そして海洋教育の拠点とするための活動方針と今までの取り組み実績をシンポジウム開催等により示した。具体的には、先進地事例を紹介しながら安全活用のために作成したルールの提案と新たな安全指導団体を紹介して一層の支援を求めた。又散策道の再発見として港を見下ろす番神岬の紹介活動も行った。 *シンポジウム開催日 H16年3月10日
	

2 NPO法人エイジレスたまご
風を通す かげを感じる 都市再生事業
Only - oneのまちづくり

みなと海岸と中心部を結ぶエコタクシーの運行により賑わい連係の実験を行った。クリーンエネルギーによる新たなまちのツールとして注目を集め、H16年1月の17日間で乗車数420人を記録し、6月からの企業化に自信を深めた。

* エコタクシー 電動三輪自転車



3 NPO法人エヌ・ジー・ケー・ワールド
柏崎港とれたて朝市

漁業協同組合との協働 港賑わいイベントによる港再発見

流通の関係から今まで計画倒れに終わっていたが、今回のモデル調査事業により始めて実現できた。魚の仕入れでは主催者自ら漁業協同組合の支援により魚市場や鮮魚商組合と価格と量の交渉を行い、不安の中でのスタートだったが用意した魚は80分で売れ切れる盛況ぶりだった。上記の漁業協同組合等の3団体からは、これからも全面支援の約束を取り付け、今後もこのイベントを継続することを誓った。

* 朝市開催日 H16年3月20日(土) 延べ来客数 4千人



4 柏崎ヨット連盟他
佐渡海峡いるかウォッチングクルーズ
- 実証調査 -

イルカいるか?の情報網の構築により、2回のいるかウォッチングクルーズ実験を成功させた。新潟の海でも実施可能である事を実証でき、今後の観光資源として事業化への道付けができた。6月一杯は、高い確率でイルカに出会える事を更に実証するためテストクルーズを重ねる。

*ウォチング実施日 H16年3月16日、21日



- 5 NPO法人 賢和
光輝く港整備事業
落日後の余韻を楽しむ番神岬の光装飾実験
寒々とした暗闇の中に暖かな景観を演出し、ホテル宿泊客や周辺住民の方から暖かな反応が得られた。観光PRや会社コマースシャルの表示提案があったが、設置費と電気料金の捻出が課題である。又港湾内でのイルミネーション点灯の魅力についてきっかけを与えた。

* 点灯期間 H16年3月12日～21日

(電力不足のため、心細い点灯となったが、このことが逆にバックの番神堂のシルエットと重なり幽玄な雰囲気をかもしだした。市民の反応)



6 . 本調査と関連する活動実績

- 1 . 柏崎港リゾートアッププロジェクト調査報告策定 (H5)
- 2 . 柏崎港レクリエーション施設計画調査報告策定 (H6)
- 3 . 観光船・遊漁船の西埠頭運航に焦点をあてた柏崎港利用活性化計画報告策定 (H14)
- 4 . 観光協会による観光船・遊漁船の試行運航 (H14、H15)
- 5 . 港湾管理者事務局による柏崎港活性化検討委員会からの港施設を繋ぐ賑わいへの提言 (H15)

7 . 本調査の成果等、本

個々の団体の発想の豊かさに驚かされました。聞けば前々が

ら構想は持っていたが機会が無かったとの事でした。4つの港周辺の場所を特定した活動に、エコタクシーが加わることで市街地と一体となった賑わいへのシナリオが完成しました。今後は、これらの活動支援を継続すると共に、並行して展開された柏崎港活性化検討委員会による提言の実現のため県市が共同でハード整備を担当しながら賑わい再生に向けて取り組むことといたします。

本調査の結果提起された課題。

- 1 埠頭内に休憩・情報案内のための施設（ポートセンター）の設置と、観光船等の接岸可能な岸壁（栈橋）整備。
- 2 みなと海岸賑わいルートを安全に繋ぐための臨港道路海側の歩行空間整備
- 3 番神の丘散策道の整備
- 4 小休止のためのポケット広場の設置
- 5 埠頭内の低・未利用空間を賑わい空間としてイベント広場等への開放
- 6 市街地に存在する史跡名所の観光資源の掘り起こし
- 7 マリンレジャー愛好者の安全確保のための拠点施設の設置

